

【本文】

無明長夜の灯炬なり  
むみょうじょうやとうこ

智眼くらしとかなしむな  
ちげん

生死大海の船筏なり  
しょうじだいかいせんぼつ

罪障おもしとなげかざれ  
ざいしょう

【意識】

南無阿弥陀仏は、煩惱に惑い苦しむ私、まるで長く深い夜のように明けることのない闇の中にいる私にとつては大いなる灯です。

ですから、自分に智慧がない、と悲しまなくても良いのです。

南無阿弥陀仏は無限に生まれ死にを繰り返す迷い続けた私を救う船であり、筏です。

こんな罪重いが自分が救われるはずがない、と嘆かなくともよいのです。

【私の味わい】

目隠しされ目印のない状況で、目的地を目指して真っすぐ歩くことはできるか。ある生物学の実験のお話です。一人では心もとないため、三人で一緒にスタートをしました。すると、本人は真っ直ぐ歩いているつもりでも、実際は徐々に右に曲がり始めて少しづつ円を描き、ぐるぐる弧を小さくしながら最後は出発点に戻ってしまったそうです。原因は諸説あるようですが、人、状況を変えても同様の結果になるそうです。

上記のご和讃で、仏様から見れば私たちはそのような迷える存在なのだよ、と親鸞聖人は教えて下さいます。真っ直ぐ歩いているようであらう。現在地が分かっているようであらう。目的地が分かっているようであらう。と。

しかし、そのような私たちに阿弥陀様はお慈悲を垂れて下さるのだ。迷える自分を嘆くことはない。阿弥陀様という大いなる灯があるから安心せよとも教えて下さるのです。阿弥陀様は、私を、私たちを救う船であり筏である、とも。

今まで目隠しをされ、暗闇の中に右往左往する私たちが、その灯に照らされるとどうなるでしょう。目的地は、阿弥陀様の極楽浄土とはつきり知らされます。現在地は、その極楽への途上であるということが明確になります。そして、自分の考え、自分の心に基づいて歩むのではなく、阿弥陀様をより所する心(信心)に基づいて歩み、感謝のお念仏でもって日常を送る。迷いようがない私にして下さった。その有難さを思います。